



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

令和2年12月7日

<12月号>

歴史と伝統あるもちつき大会

校長 後藤 修治

先月28日に実施されたもちつき大会には、多くの保護者の皆様、ご家族の皆様にお越しいただきありがとうございました。今年度はコロナ禍の中、また、最近の全国及び県内の感染拡大状況を踏まえ、実施も危ぶまれたのですが、PTA三役、教養部、学年委員、理事の方々が、計画段階から事前準備、当日の運営に至るまで感染予防対策を十分にとってくださいのおかげで無事実施できました。心より感謝申し上げます。

さて、この両津吉井小学校のもちつき大会は、昭和57年に始まった40年近く続く伝統あるPTA行事です。もちつき大会当日、神野さんから、校長室でもちつき大会の歴史についてお話をお聞きしました。神野さんは、もちつき大会が始まった頃からもちつき大会にかかわってこられ、近年では、当日のもちつき指導にお越しくださっています。

現在使用している杵は、地域にお住まいの北井さんからもちつき大会が始まった当時に寄贈いただいたものなのだそうです。そして、安全に使用できよう、毎年事前にご厚意で点検・整備をしてくださっているそうです。

また、川辺さんからも、ヨモギの提供をいただき、そして当日も、もちつき指導にお越しいただいています。そして、伊藤さんからは、田んぼを貸していただき、5年生への稲作体験指導やもちつき大会で使用するもち米の提供をいただいています。

こうして考えてみると、このもちつき大会は、これまで多くの地域や保護者、PTAの方々がかかわってこられ、学校や地域で大切にされてきた大行事であると、その重みを感じたところです。もちつき大会開会式のあいさつでは、子どもたちに、「感謝の気持ちをもって参加しましょう。」という話をしました。

近年、臼と杵でもちつきを行う家庭は減ってきました。両津吉井地域においても、現在行っているのは、1件ほどしかないそうです。もちつきにかかる時間や労力を考えれば、機械に頼ることは致し方ないことだと思います。

だからこそ、子どもたちが、なかなか体験できないもちつきを学校で体験できることに大きな意味を感じます。もちつき大会当日、子どもたちが、もちをつくたびに「よいしょ。よいしょ。」と元気にかけ声をあげていたのがとても印象的でした。もちができてあがるわくわく感が伝わってきました。



今年はコロナウイルス感染防止対策で、会食時の会話は控えていただきましたが、できあがったおもちや豚汁をおいしそうに食べ、うれしそうにおかわりに行く子どもたちを見て、コロナ禍ではありましたが、もちつき大会が実施できて本当によかったなと思いました。

このもちつき大会にご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。